

まちづくりコラボレーション ～さいたまプロジェクト

PROJECT MEMBER

〈代表者〉 システム理工学部 環境システム学科

教授：作山 康

〈構成員〉 システム理工学部 環境システム学科

教授：中村 仁、澤田 英行、中口 毅博

准教授：増田 幸宏

2013年度にCOC事業の助成を受けて創設した「サテライトラボ上尾」およびさいたま市および大宮駅東口協議会が大宮駅東口で運営している「まちらぼおおみや」を拠点として、地域住民、自治会、社会福祉協議会各種学校、市民活動団体、事業者、自治体などの協力を得ながら、「超高齢化に対応した都市環境の形成、地域の安全性の向上、低負荷環境の創出、経済力維持・向上」に関わる実証的な研究を実施し、地域の多様な主体の協働による都市・地域計画システム（地域の将来目標像の設定とその実現のためのプログラム）のあり方を検討している。2015年度は地域の課題解決への提案から実証実験にステップアップし、大学が地域へ貢献していく実践の機会である。



地元や市と連携した「建築・地域プロジェクト特論」

2015年度 活動の成果

教育

都市計画・まちづくり系の大学院の演習科目「大学院プランニング演習」「建築・地域プロジェクト特論」、学部の演習科目「環境計画演習」や「土地利用計画演習」では、従来から特定の地域を対象として地域の課題を把握し、その課題への対応を提案するというPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）の計画・設計演習を実施していたが、COC事業を受けて、地域との連携をより強化した教育プログラムに発展させ、大宮キャンパスに近い上尾市のUR原市団地や大宮駅東口とその周辺地域を対象とした学生の教育効果をさらに高めている。2015年度から演習等の提案成果を関係団体と連携して実証実験を行っている。特にこの大学院の演習成果の水準は高く、地域課題



「建設工学プランニング演習」での実践的な提案

解決の実現につながる実現性の高い提案となるよう教育指導を行っている。

以上のような地域との連携を強化しかつ実証実験でその効果を確認めるサービ斯拉ーニングによる高度な教育に取り組むことにより、より実践的な人材教育のためのまちづくり教育が実現できている。

研究

学外の地域活動拠点をベースとする卒業論文、修士論文の研究を通じて、地域の課題である「超高齢化に対応した都市環境の形成、地域の安全性の向上、低負荷環境の創出、経済力の維持・向上」およびその実現のための「多様な主体の協働による都市・地域計画システムの創出」に関する先進的かつ実践的な研究を行い、実社会に役立つための研究を行っている。



空き店舗を活用した「サテライトラボ上尾」がまちづくり実践の拠点となっている



団地内高齢者の健康づくりイベントやその効果研究をNPO実施と連携して実施

【2015年度研究成果】

〈学部卒業論文4件〉

- ウェルネスの拠点づくりがもたらす住民意識の高まりに関する研究
- 高齢化団地における空き家改善に関する研究
- 高齢者の外出行動からみた買い物弱者対策に関する研究
- 高齢化の進む住宅団地における災害対応の実態と課題〈修士論文2件〉
- 「団地における大学連携の意義と課題の研究」

- 「高齢化が進む住宅団地におけるコミュニティ活動と災害対策の現状と課題」

社会貢献

〈知の公開〉

計画・設計演習や卒業論文、修士論文の成果を、広く地域に公開している。2015年度は、学生提案を地域自治会が採用し、サービ斯拉ーニングとしての成果が見えつつある。

〈知の交流〉

地域の課題に対応したプロジェクトを学生が地域住民、企業、市民団体、行政と連携して実践している。

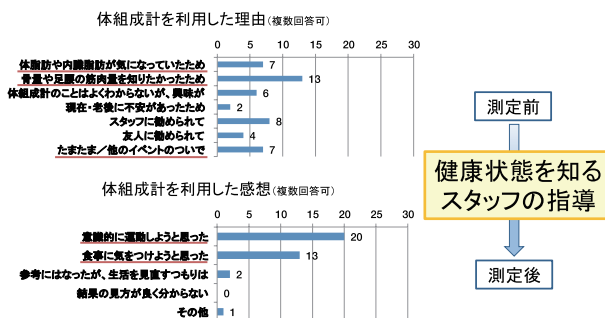
〈知の創出〉

学外に地域活動の拠点を設け、地域住民をはじめ多様な主体が活用・交流する場となっている。ラボや学生たちの活動が契機となり行政や民間、市民団体等の活動を触発し、連携しながら地域の課題解決に向けた創造的な計画や提案を行い、かつ実証実験による効果検証の研究も取り組むなど社会にすぐ役立つ実践的な研究を進めている。



健康機器一体組成計—

■健康意識の変化（アンケート結果より※測定者52人中29人）



主なトピックス >>

サテライトラボ上尾



毎月開かれている運営会議の様子

2014年団地内にサテライトラボ上尾が開設されたことにより、大学だけでなく民間や市民団体の各種活動が展開しつつある。現在、サテライトラボ上尾の取り組みは、地域や行政、そして広く社会でも注目され、2016年2月22日NHK「ひるまえほっと」では「大学生が地域の課題を解決!～芝浦工業大学・大宮キャンパス」のタイトルで、10分程取り上げられた。

ラボ運営会議



NHK取材に応じる学生達

サテライトラボ上尾では、毎月1度、運営会議を開催している。運営会議では、地域の課題に対する各団体の活

動の情報共有を行い、団体間の連携につなげている。

参加団体：原市団地自治会、UR都市機構、上尾看護専門学校、聖学院大学、コープみらい、社会福祉協議会、社会福祉包括支援センター、白樺団地自治会、NPO ヒューマンシップコミュニティ、ムーミンの会

親子環境教室



学生による親子環境教室の様子

UR原市団地および近隣に住む小学生(7名+保護者)を対象に、体験型環境教育プログラム「親子環境教室」を昨年に続いて実施。

親子環境教室は、コープみらいが主催で大学が協力するイベントで、環境システム学科中口教授と研究室の学生が協力して、eco工作と環境学習を行った。

学生による自主的な地域支援活動

本学の学生が主体となって、2013年より原市団地において地域支援活動を行っている。現在ではサテライトラボ上尾を拠点として学生が自発的にイベントを開催している。

これまでの取り組み

- ウォーキング活動支援
- コミュニティガーデン活動
- 健康体操支援
- 夏祭りのお手伝い、店舗出店

●キャンドルナイト 餅つき



夏祭りへの学生参加

さいたま市における学生の取り組み

FACE TO FENCE

『FACE TO FENCE』プロジェクトは、地域の中に存在する境界 (FENCE) に目を向け、境界が仕切る異なる領域 (街と小学校、街と公園など) の調和と融合を図り、地域の交流に結び付けることを目的としたプロジェクトである。2015年度は「さいたま市立春岡小学校」と連携して実施。

COLOR MY TOWN

昨年度までの『FACE TO FENCE』と『大宮イルミネーションプロジェクト』による合同プロジェクト。

2016年度秋に開催される、「さいたまトリエンナーレ 2016」への参画とその後の継続的なまちづくりを目指し、地域を横断した活動を行っていくことを目的としている。今年度は、「さいたま市立春野小学校」、「カトリック大宮教会」、「大宮駅東口商店街」を拠点としたまちづくりから、それらの活動が地域を超えて各場所に表出する活動を行っていく。



お絵描きイベントの様子



お絵描きイベントの集合写真



COLOR MY TOWN大宮点灯式